

医療従事者-患者関係の再考  
—「信頼関係」の再構築に向けて—  
(要旨)

広島大学大学院文学研究科

博士課程後期 人文学専攻

学生番号：D174620

氏 名：蔡 源玥

本論文は、医療行為の中心である「人間としての患者」が——医療には不確実性があると知りながらも——最大限に安心できるような社会環境を作り上げ、医療従事者と患者のあいだの「信頼関係」を再構築する方法を探ることを目的としている。そのために、現代医学における医療従事者-患者関係に関する各種概念、日本・中国における医療従事者-患者関係の歴史的変遷および現状、さらに、「信頼」に関する考察を中心に論を展開した。

まず第一章で、西洋発祥の現代の医療倫理に基づいて医療従事者-患者関係に関する各種課題、および基本的な倫理規則について考察を行った。医療従事者-患者関係は、英語で **Professional-patient relationship** と言い、専門家と依頼者との関係として研究されることがほとんどである。医療従事者と患者との関係の形は、両者がそれぞれどのような役割を果たしているかによって決められる。それは、他の専門家-依頼者関係と同様に、社会制度、経済、文化などに影響されているが、医療従事者-患者関係における倫理原理には、特定の時代や文化の範囲を超えた普遍的な部分もあり、それらが、医療従事者-患者関係を基礎づけている。例えば、本論文において考察した、ビーチャムらによる① 自律尊重原理、② 無危害原理、③ 仁恵原理、④ 正義原理が、もっとも代表的である。一方、医療行為が行われる文化的・社会的環境も、医療従事者-患者関係の形態、および医療における基本的な倫理原理の実践に影響を与える。ゆえに、医療従事者-患者関係における倫理問題には、医療者の倫理意識を高めることや、医療者と患者との相互協力、および相互理解を促進するだけでは、解決できない部分がある。これらのことを視野に入れながら医療従事者-患者関係を理解しなければ、医療従事者と患者との関係の良し悪しに関する考察は、個人の行為によって改善できる範囲の中に、限定されてしまうと考えられる。

次に、第二章では、医療倫理や医療制度の歴史的変遷から、日本における医療従事者-患者関係について考察を行った。日本は、新羅を始め、中国、インドなどから、文化的影響を受けたが、どの文化もそのまま受け入れたのではなく、独自の方法で変化を加え、日本特有の文化に発展させたと考えられる。このような特徴は、日本における医療観の変化にも見受けられる。明治時代には、西洋医学を積極的に取り入れるという政府の方針のもとで、医療

に関する一連の法令——「医制」が採択されて以来、西洋医学以外の医療形態は、主流から外されることになった。こうして、日本の医療における近代化が始まった。日本における医療の近代化は、政府の主導によるものであったからこそ順調に進められてきたが、患者の権利という概念の確立は妨げられた。ゆえに、アメリカのように患者側（一般民衆）が自ら権利を要求する権利運動は、ほとんど起こらなかった。また、戦後の国民皆保険制度や一連の福祉対策は、医療における「平等性」をもたらしたが、医療費の増大や、患者の大病院志向、医薬に対する過度な依存などの問題が生じた原因ともされている。さらに、昭和四十年代前後、日本社会は、既存の権威に対して疑問を抱くという欧米の思想潮流に影響され、それまで問題視されていなかった社会現象が、注目されるようになった。日本の医療界でも、患者の権利への関心が高まった。しかしながら、患者の権利に関する議論や、インフォームド・コンセントの導入は、政府や日本医師会の主導のもとで行われてきた。日本の医療保険制度や高齢者福祉制度などは、世界的にも評価されており、民衆の医療システムに対する信頼度は高いと思われるが、日本の「信頼関係」は、「信頼」というよりはむしろ、政治家や医療者などの権威への服従である。患者の権利への要求も、アメリカのような強力なものではなく、医療従事者との合意、すなわち、医療従事者に決定権を一部「譲ってもらう」、という姿勢に基づいていると思われる。医療行為における医療従事者と患者との相互理解、および協力関係が必要であるとされてはいるが、実のところ、患者は、専門的な知識を持っていないため、説明されても理解できない場合がほとんどである。特に外来では、「二時間待ち、五分間診察」というような、長く待たされた上に説明が不足している状況は、未だにそれほど改善されてはいない。

第三章では、中国における医療従事者-患者関係を、医療の歴史的変遷に沿って考察した。さらには、近年に起こった医療にまつわる事件をいくつか紹介しながら、医療従事者-患者関係の現状、およびそれらの事件から読み取れる問題について分析した。古代中国には、二種類の医療者がいた。すなわち、公的医者と民間医者である。公的医者は、朝廷によって管理されており、王室や官

員のために医療活動を行っていた。それに対して、民間医は、もとより組織化されておらず、個々人の腕で生計を立てていた。また、当時の一部のやぶ医者を除いた医者は、多かれ少なかれ儒家文化に影響されており、慈悲心と惻隱心を持つことや、患者の信頼を得ることを非常に重視していた。このような伝統的な医療従事者-患者関係は、西洋医学の移植によって変化することになり、医療における漢・洋の争いは、避けられなかった。伝統的な中国医学が主流だった時代、官僚であれ、普通の民衆であれ、医学に関する知識を多かれ少なかれ持っていたゆえ、治療方針に関する決定権や、医師を選択する能力を有していた。それに対して、当時の大部分の中国人にとって、西洋医学は斬新な領域であった。中国の患者は、伝統的な中国医学への名残を感じたまま、医師の指示通りに治療を受ける「現代の患者」への身分転換を余儀無くされた。1950年代より、中国政府は、社会制度の改革および経済建設に着手した。この時期、民衆は、徹底した政治思想教育のもとで、国家の建設に対して絶大な情熱を抱き、生産力の発展だけを重要視していた。治療費が安いことや、生産力の発展の絶対的な重視などの理由によって、民衆が当時の医療条件や医療制度に不満を表すことはなかった。改革開放前の中国の医療従事者と患者は、歴史的な観点から見ても、もっとも親密な信頼関係を保っていた。1980年代、あらゆる分野において行われた市場改革、および社会が開かれたことによってもたらされた価値観の多様化などが原因で、中国における医療従事者-患者関係に新たな変化が生じた。医療をめぐる事件が多発し、以前は道徳教育のもとで保たれていた医療従事者と患者との間の親密な信頼関係はしばしば、「不信感に溢れている」とか、「悪化している」と言われるようになった。それらの事件の中には、精神的にも身体的にも追い込まれて暴力に訴えた患者もいれば、特殊な患者家族もいるが、中国の世論には、どうしても医療においては「弱者」である患者側に支持が偏ってしまう傾向が見られる。「弱者」を守る傾向が強い分、いわゆる「強者」に対する道徳的糾弾が激しい。また、医療に関する判断を個人的な感情に委ねた患者やその家族は、期待通りの結果が得られなかった場合、無論その結果に対しても客観視できなくなり、暴力事件や争いが起こりかねないし、逆に、患者は、期待通りの結果を得たいがゆえに、その信頼を正真正銘

の「悪徳病院」に利用され、騙される恐れがある。したがって、中国における医療従事者-患者関係においては、昔ながらの「信頼」の構築方法は、もちろん積極的な役割も果たしているが、すでに社会的環境が変化した今日では、そればかりを強調することは、逆に「不信」の原因になる恐れがあると思われる。

最後の章となる第四章では、ニクラス・ルーマン、アンソニー・ギデンズ、山岸俊男における信頼論、および中国における「信頼危機」について考察を行った。ルーマンは、信頼を社会的な複雑性を縮減する手段としてみなしている。それに対して、ギデンズは、時間的・空間的に無限に拡張している現代では、信頼をより持続的な状態としてみなすべきだとし、その対義語は、「不信」ではなく、「不安」と述べた。彼によれば、信頼は、「脱埋め込み」を遂げた抽象的システムに属しており、時間的・空間的隔たりを括弧にくくって無視し、たとえ不安が現実存在しているものであっても、生きる上での不安を遮断していくのである。また、山岸によれば、日本は、「信頼社会」ではなく、「安心社会」と主張している。彼は、日本社会における「安心」は、閉鎖的な社会関係によってもたらされているため、より開放的な社会関係が必要とされている現代社会では、逆に社会発展の足かせになる恐れがあると強調した。また、現代の中国においても、信頼に関する様々な研究がなされてきたが、主に「信頼危機」を中心に行われてきた。中国における「信頼危機」は、「伝統」と「現代」という二種類の価値システムの衝突によって生み出されたと考えられる。医療従事者-患者関係に見受けられる「不信」は、信頼危機が起きている象徴である。

本論文は最後に、「信頼」に対する考察を手掛かりにし、日米の医療を参考にしながら、中国における医療従事者と患者との「信頼関係」の再構築に向けていくつかの提案をした。すなわち、① 医療システムへの信頼を生み出せるような社会環境を作り上げること、② 公立病院の公益性を実現できるように努力すること、③ かかりつけ医制度などによって専門家システムへの信頼を作り上げること、④ 医療システムへの「アクセス・ポイント」を通じて信頼を強めること、の四つである。これらの提案の実現によって、医療従事者と患者との信頼関係を再構築する道が開けるとと思われる。